

環境保全

社会との調和を目指して

東京エレクトロンは、地球環境を保全し、継続的に改善することが人類共通の最優先課題の一つであり、経営上もっとも配慮すべきことの一つであると捉えています。この認識に立ち、地球環境との調和を保った繁栄を実現することを常に念頭に置き、お客様・株主・従業員そして地域社会から総合的に信頼され愛される企業の構築を目指して、さまざまな環境保全活動を行っています。

これまでの環境保全活動概要

～1995年	環境管理システムの構築を検討 特定フロ全廃
1996年	第一回環境委員会開催 環境管理システムの構築を開始
1997年～1999年	国内主要7事業所 ISO14001認証取得
1999年	装置EHSロードマップ作成
2000年	環境会計導入開始

具体的な取り組み

ISO14001の認証取得の推進

東京エレクトロンは、環境マネジメントの国際規格であるISO14001の認証取得を強力に推進しています。1997年から取得を開始し、1999年末までに、主要国内製造工場7拠点でISO14001の取得を終了しています。認証機関としては、環境管理にも知見があり、先に認証取得したISO9001と同様にDNV(デッド・ノルスケ・ベリタス)に審査を依頼いたしました。尚、1998年に稼働を開始した東京エレクトロン宮城は現在認証取得の準備を進めており、米国工場も含めて早期の取得を目指しています。

環境に配慮した製品の開発

東京エレクトロンでは、環境負荷を低減する製品の開発を積極的に行っています。一例として、当社のコータ/デベロッパCLEAN TRACK ACT® 8や洗浄装置UW200Zは、新しいコンセプトのもとに設計され、省スペース、省エネ、省薬液等を従来に比べて大幅減とした装置です。また、当社では地球温暖化効果が低く、しかも技術的特性を損なわないフッ素ガスC₅F₈の研究開発を行い、エッチング装置のプロセスに応用しています。



尚、このC₅F₈プロセスを実用化した地球温暖化対策への積極的取り組みが認められ、1999年12月、SEMI (Semiconductor Equipment and Materials International) Japanより表彰を受けました。1999年、個々の装置に対応する環境対策のための実施計画表(EHSロードマップ)が作成され、さらに環境に配慮した製品作りが進んでいます。

化学物資の管理を厳重に進める

化学物質の管理は法規制の遵守のみならず、事前の有害性評価や保管、緊急時における対応方法の検討など、総合的な管理が必要となってきました。東京エレクトロンでは、化学物質の新規導入時における審査、登録システムを構築し、化学物質による環境汚染の未然防止を目的に厳重な管理を推進しています。また、国内事業所では、化学物質ごとの環境中への排出量や廃棄物としての移動量を自ら把握し、その結果を行政や業界に報告するPRTR制度を2000年4月より導入いたしました。

廃棄物の削減、リサイクル率の向上、省エネ、省資源、グリーン購入を進める

運動の成果の一部をご紹介しますと、1998年度の国内全事業所における廃棄物量は1997年度と比較して21%低減いたしました。1996年を起点とする過去3年間のリサイクル率も、15.3%、40.9%、49.7%と大幅に上昇しています。また、事務部門を中心として紙製品、事務用品、印刷物等において環境に配慮されたエコロジー製品の購入を推進しています。

お客様・地域社会や業界への貢献

お客様には先に述べた環境に配慮した製品の開発を通じて、お客様の環境保全活動への協力を行っています。地域社会には、各地域で行われる環境保全活動への参加を通じての協力を行っています。業界には積極的な情報交換や業界スタンダードの作成活動への参画、フォーラム等への企画段階からの参画を通じての協力を行っています。これらの活動は、今後更に強化してまいります。

環境会計の導入を2001年3月期から行う

東京エレクトロンでは、環境保全活動の効果を数字の上から定量的に評価し検証してゆくために、環境会計を2001年3月期より国内事業所で導入する予定です。

ディスクロージャー(開示)

東京エレクトロンの環境保全への取り組みを幅広くご理解いただくために、2001年から当社の環境報告書を年次で開示してまいります。